



コミュニティ政策学会

# コミュニティ政策学会

Japan Association for Community Policy

## Newsletter No.39 (2018.6.1)

## 第17回学会大会（福山）のご案内 地方都市コミュニティの生き残り戦略

### 開催趣旨

21世紀に入って世界の先進諸国で「縮小都市」（縮小地域）の問題がクローズアップされ、日本においても中山間地域の研究、自治体での「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、地域おこし協力隊など試みなどが行われてきた。

都市・地域の縮小の今、コミュニティ政策は、何をみつめるのか。2018年度大会が開催される中国地方の地方都市および中山間地域の地域コミュニティに着目すると、一方で弱っているコミュニティについての指摘があるとともに、他方、弱ってはいるけれども回復の可能性のあるコミュニティがあると指摘する声がある。

流動化の現在、「地域コミュニティの生活圏域」をどのようにもってゆくのか？ 地域の内発力を高め雇用を生み出すような自給圏や、お互いに支えあう本格的な生活圏づくりはどのようにしたらよいのか？ コミュニティの生存条件を強くし、地域が自立することにつながるようなことなのかが問われており、まさに、地域資源力・自治力・内発的地域発展にかかわる、地域コミュニティを生かす「地域力」が問われている。

この観点から、本大会においては、「地方都市コミュニティの生き残りとは？」、ないし、「持続可能な地方都市コミュニティにむけての戦略」をテーマとして問うこととする。

これを踏まえて大会シンポジウムでは、「人口減少の時代『地域力』を高めるコミュニティのありかたと担い手とは？」をテーマとし、また分科会では、「生活圏」としての「鞆の浦」、「地方都市郊外」の持続化の問題、中山間エリアでの暮らしを支える「地域の仕組み」、地域住民主体の地域福祉活動と課題、若者や関係人口の新たな地域コミットのありかたなどの問題が討議され、地域縮小・少子高齢化の時代に直面したコミュニティ政策の新たな方向と展開を問う。

会 期：平成30年（2018年）7月7日（土）・8日（日）

会 場：福山市立大学港町キャンパス（広島県福山市港町2-19-1）

主 催：コミュニティ政策学会 後 援：広島県 福山市 広島県社会福祉協議会

協 賛：広島県社会福祉協議会 広島県共同募金会

大会参加費（資料代含む）：会員（一般、団体）2,000円、

非会員（1日1,000円、2日2,000円）、学生500円（2日通し、会員・非会員ともに）

【懇親会】（事前申込要）

日時：7月7日（土）17時30分～19時00分

場所：福山市立大学 生協食堂

会費：3,500円

【7月8日（日）昼食について】（事前申込要）

弁当、ランチ（食堂）ともに500円

## 【第1日目プログラム：7月7日（土）】

総会：12時30分～13時30分 ※受付開始12時00分

1F 大講義室

シンポジウム：14時～17時

「人口減少時代『地域力』を高めるコミュニティのありかたと担い手とは？」

1F 大講義室

中国地方、また他地域の地方都市および中山間地域のコミュニティが直面する厳しい人口減少・地域縮小の今、人々の生活を生かす「自給圏」「生活圏」を維持し、あらたにつくりだすには、どのように「地域力」（資源力＋自治力＋内発発展力）を回復し、生み出すことができるのか？ 次の4つのケーススタディ（参考とするコミュニティ）を基に考えてみる。

＜企画責任者：前山 総一郎（福山市立大学教授）＞

## ●参考とするコミュニティ

- ① 笠岡島づくり海社：島々をつなぐ島民有志の、島に住みつづけられるための活動（暮らし、交流、産業、学びサポート）  
 【報告者】鳴本 浩二（特定非営利法人かさおか島づくり海社 理事長）  
 【解説者】池田 憲太郎（笠岡市協働のまちづくり課）
- ② 尾道市山手地区：空家再生と新たな生業、傾斜住宅の地で生活を楽しむ若き移住者たち  
 【報告者】小野 環（尾道市立大学准教授）  
 【解説者】西川 龍也（福山市立大学教授）
- ③ 福山市田尻地区（高島学区）：地域自治組織をプラットフォームに、多様な人たち（新旧住民・Uターン者）・杏産物など地域資源を総動員活用して「地域アクティブ化」へ  
 【報告者】酒井 良治、中山 由子（田尻の未来を考える会）  
 【解説者】前山 総一郎（福山市立大学教授）
- ④ 福山市松永エリア：外国籍定住者が「支援される側から支援する側」となって、地域一体化の活動（消防団等活動）  
 【報告者】エリック・ムネネ（インターナショナルチーム 代表）  
 【解説者】村田 民雄（特定非営利活動法人 NGO ひろしま 理事長）

## ●パネルディスカッション

これらのケースをもとに、「地域の内発を高め雇用を生み出せるような自給圏」「お互いを支えあえる本格的な生活圏」としてのコミュニティの姿にむけて、どのように「地域力」を維持し、回復することができるのか？を問う。

【司会コーディネーター】乾 亨（立命館大学教授）

【コメントーター】名和田 是彦（法政大学教授）、宗野 隆俊（滋賀大学教授）

懇親会：17時30分～19時00分

会 場：福山市立大学 生協食堂

会 費：3,500円（会場にて徴収させていただきます。）

## 【第2日目プログラム：7月2日（日）】

分科会Ⅰ：9時30分～11時30分 ※受付開始：9時00分

## Ⅰ-1 「地域コミュニティと若者の関係づくり」

会場：研究棟2F 中会議室B

持続可能なコミュニティを目指して、若い世代（中高生，大学生，留学生など）との関係づくりは、どの地域でも様々な工夫しながら積極的に進めているところである。備後地域においても、地域コミュニティやNPOとの連携による見守り活動や伝統や習慣・地域維持活動を通して地域社会の実情や課題を学ぶ活動、中高生の地域の未来や課題を自分事としてとらえ主体的に考え行動する力を育てる活動、また地域おこし協力隊の活動などが行われており、地域の課題解決と社会で主体的に活躍できる人づくりに寄与する具体的な事例と流れを提起したい。

<企画担当者：三村 聡（岡山大学教授）池田憲太郎（笠岡市協働のまちづくり課）>

- コーディネーター：三村 聡（岡山大学教授）
- コメンテーター：池田 憲太郎（笠岡市協働のまちづくり課）
- 報告者：浜田 淳（岡山大学大学院医歯薬学研究科教授）  
岩淵 泰（岡山大学地域総合研究センター助教）  
藤井 剛（井原市教育委員会）  
相澤 麻有子（笠岡市地域おこし協力隊）

## Ⅰ-2 「のこるか、のこせるか 里山の人と暮らしから、地域の自治を考える～中山間地域からの取り組みから～」

会場：研究棟2F 中講義室C

平成の市町村合併から10年余り過ぎ、大きな社会の変化とも重なり、中山間地域の変わりようはさらに激しい。過疎化する地域、少子化、高齢化を目のあたりにする中で、暮らしを守る知恵として考え出した「もう一つの役場」や「小規模多機能自治組織」（地域運営組織・小さな拠点）の実践など、激変する時代の中を生きる中国山地での取り組みなどの報告を受け、「ここに生きる」の思いをもとにした、地域の暮らしの成り立ちと、これからの道筋、それを具体化する地域の仕組みなど、人と暮らしのための知恵と工夫を探る。

<企画担当者：安藤 周治（NPO法人ひろしまね理事長）、中村 隆行（広島経済大学准教授）>

- コーディネーター：安藤 周治（NPO法人ひろしまね理事長）
- 報告者：有田 昭一郎（島根県中山間地域研究センター 主席研究員）  
板持 周治（島根県雲南市政策企画部地域振興課主査、小規模多機能自治推進ネットワーク）  
小田 博之（口羽てごうーする会事務局長（島根県邑南町））

## Ⅰ-3 「住民主体で暮らしやすい地域を創るために！～人口減少社会下の地域住民の地域福祉活動の展望～」

会場：研究棟2F 中会議室D

独居高齢者をはじめとした生活課題を抱えた地域住民の増加への地方自治体の対応が迫られるなかで、介護保険など法制度や福祉・医療専門職とともに地域住民の相互扶助による役割が期待されている。しかし、地域住民の自治会離れが加速する現状において、活動人材の不足、個別的な支援の対応の限界、地域住民の活動への主体的な動機の不足、などが課題となっている。本分科会は、地域住民と地方自治体・専門職による地域福祉活動への様々な工夫へのヒントを報告事例から見出し、今後の地域での生活課題に地域住民が対応することの展望を考える。

＜企画担当者：手島 洋（県立広島大学保健福祉学部講師）＞

- コーディネーター：手島 洋（県立広島大学健康福祉学部講師）
- コメンテーター：藤井 悟（元福山平成大学教授）
- 報告者：林 裕（広島市安佐南区昆沙門台学区社会福祉協議会 事務局長）  
益本 住夫（特定非営利活動法人ほっと吉和 理事長）  
鳥海 洋治（福山市社会福祉協議会福祉のまちづくり課長）

#### I-4 自由論題部会 A

会場：研究棟 1F 小講義室 C

- 発表者：
  - ① 三浦 哲司（名古屋市立大学大学院准教授）「イタリア大都市の地区再編は何をもたらしたのか？ートリノ市第2地区と第10地区の統合を例に」
  - ② 淵元 初姫（法政大学大学院特任教授）「スコットランドにおける自治体内分権の様相？その限定された役割の意義」
  - ③ 大内 田鶴子（江戸川大学教授）「シアトル市行政監査報告書から見たディストリクト・カウンシルの問題点」
  - ④ 廣田 有里（江戸川大学教授）「情報発信の観点から見たシアトル市のコミュニティ政策」
  - ⑤ 鯉坂 学（同志社大学名誉教授）・玉野和志（首都大学東京教授）「イギリスにおける準自治体（Local Council）の現状とその意義の検討～ロンドン市及びケンブリッジ県におけるCommunity Councilを事例に」

#### I-5 自由論題部会 B

会場：研究棟 1F 小会議室 D

- 発表者：
  - ① 松下 啓一（相模女子大学教授）「自治体若者参画条例の制定にあたっての理論、内容、留意点」
  - ② 竹野 克己（法政大学大学院）「C.Aペリーの「近隣住区論」の受容に見る日本のニュータウン政策とコミュニティ政策における「空間論」について」
  - ③ 浅野 幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター）「地域防災と地域福祉の連携はいかに可能か？～防災福祉コミュニティ構想のその後を検証する」
  - ④ 許 海妍（ホヘヨン）（早稲田大学大学院）「東日本大震災後のレジリエンスに関する研究？岩手県釜石市の復興まちづくりを事例にして」
  - ⑤ 早田 幸（早稲田大学教授）「東日本大震災後の農村コミュニティレジリエンスの評価」

### 【7月8日（日）の昼食について】

会場周辺には、飲食店等はありません。

生協食堂は営業しています。食堂ではランチとお弁当の2種類を用意しております。当日は大変混雑することが予想されるので、事前予約（ランチかお弁当）をお願いいたします。

分科会Ⅱ：12時30分～14時30分
--------------------

## Ⅱ-1 「モザイクサバールの再評価～地方都市郊外でのサステナビリティについて」

会場：研究棟2F 中講義室C

地方都市の既成市街地周縁部では、1970年代以降の自家用車普及を背景に、「農・工・商・住」が混在する郊外市街地：モザイクサバール」が形成されているが、これまでの都市計画では土地利用の失敗事例とされてきた。しかし年齢層、生産と消費、ライフスタイル等の諸要素がバランスよく配置された「モザイクサバール」は、地方都市全体の活力を支えるサステナビリティに優れた多元的エリアであり、再評価が求められている。

＜企画責任者：西川 龍也（福山市立大学都市経営学部教授）＞

- コーディネーター：西川 龍也（福山市立大学教授）
- 報告者：藤井 輝明（福山市立大学名誉教授）

## Ⅱ-2 「生活圏としての「鞆の浦」を検証する」（13時～15時 \*他の分科会と異なります）

【定員：50名 事前申込要】

**会場：福山市立鞆公民館（福山市鞆町鞆 423-1・福山市鞆支所隣接）\*会場が異なります**

一般的には「景観」で知られる鞆の浦は、都市部（福山市）に近く、バスの便もある便利な地域でありながら、地域への帰属意識においても、コミュニティによる支え合いにおいても、いまだにある程度まとまりをもつ生活圏を構成している。地勢的にも産業的にも一定自立しうる条件があったことにもよるが、同様な地域の多くが都市圏に飲み込まれるか、あるいは衰退しているなか、鞆の浦がなぜどのように（けっこう青息吐息ながらも）独自の生活圏を保ちえているのかを明らかにすることは、鞆の浦にとっても、そして多くの地方集落にとっても意義深いことと考える。

\*本分科会は地域組織「鞆学区福祉を高める会」と共催で行い、地元の方にも参加を呼びかけています

＜企画担当者：乾 亨（立命館大学教授）＞

- 司会進行・コーディネート：乾 亨（立命館大学教授）
- プログラムと報告者：
  - ① 発表者調整中「(仮) 鞆概説～地勢的条件・歴史・文化・コミュニティ」
  - ② 羽田 知世（さくらホーム職員）、牧田幸文（福山市立大学専任講師）「高齢者を支える地域の実践」
  - ③ 片岡 孝子（鞆こども園主任）「子どもやお母さんたちに鞆の文化を伝える」
  - ④ 鷲野 太平（さくらホーム職員・平地区在住）「(仮) 移住者の視点から語る鞆の暮らし」

・福山市立大会場から会場まで貸切バスで向かいます(有料：片道1,000円/人) *午前の分科会終了後すぐ(11時45分まで)に大学正面入口前集合 *昼食は事前に弁当をご用意ください(飲食会場は用意します) ・帰路(鞆から福山駅)は鞆鉄バスを利用ください(20分間隔で運行・所要時間約30分)
--

## II-3 自由論題部会 C

会場：研究棟 1F 小講義室 C

## ●発表者

- ① 小出 秀雄（西南学院大学）「地域コミュニティを担う「おやじの会」の意義と課題」
- ② 内田 和浩（北海学園大学）「韓国の大都市自治体における「マウルづくり」の現状と課題」
- ③ 金谷 一郎（大阪市立大学大学院/大阪市教育委員会）「都市部における多様なアクターの参画による地域コミュニティの再構築」
- ④ 東根 ちよ（鳥取大学）「地方都市郊外におけるコミュニティ組織の成立要因—東西町地域振興協議会を事例として」
- ⑤ 沼田 真一（早稲田大学助手）「読書推進活動の可能性—横浜市旭区での実践を事例として—」

## II-4 自由論題部会 D

会場：研究棟 1F 小講義室 D

## ●発表者

- ① 柳井 妙子（岐阜を想う会/奈良女子大学）「中山間地域での住民によるコミュニティ活性化への展望と課題?広島県安芸高田市川根地区の事例」
- ② 出口 高靖（新潟経営大学教授）「「農泊」における農村振興の検証と課題について～「加茂農泊推進協議会」における地域の合意形成と推進過程から～」
- ③ 手島 洋（県立広島大学専任講師）「地域包括ケアにおいて住民福祉活動を推進する専門的な地域援助に求められること」
- ④ 一井 崇（立命館大学大学院）「障害者雇用・就労支援を通じた持続可能な地域形成のための条件—京都府与謝野町における中間組織(アソシエーション)の役割を中心に—」
- ⑤ 関 耕平（島根大学）「地方都市における平成の大合併後の地域づくり?松江市八束町における地域計画の事例から」

<b>エクスカーショ</b>
----------------

## 1 エクスカーション&lt;鞆の浦&gt; 【定員：30名 事前申込必要】

観光地としての鞆の浦でなく福祉施設「さくらホーム」や街なかの暮らしの場を地元の方に案内していただきます。

- ・時間 15時～16時30分
- ・会場 鞆公民館 1階大会議室集合（福山市鞆町鞆 423-1・福山市鞆支所隣接）
  - \*鞆分科会から続けて参加の方は、分科会会場 1階が集合場所です。
  - \*エクスカーションから参加の方は、お手数ですが、各自で福山市大会場から鞆の浦に移動してください（タクシー：福山市立大学～鞆は約5000円）。
  - \*なお、申込者多数の場合は、鞆分科会参加者を優先させていただきます。ご了承ください。

## 2 エクスカーション&lt;松永&gt; 【定員：30名 事前申込必要】

福山市西部に位置する、松永地域は、外国籍住民の集住地域。そこで、外国籍定住者が主体的にまちづくりにかかわる動きが始まっています。「多文化共生のまちづくり」の現場の話を聴きます。

- ・集合：15:20 JR 福山駅在来線改札口
- ・集合後、JR 山陽本線で松永駅まで乗車し、会場（はきもの資料館：福山市松永町 4丁目 16-27）に向かいます。
- ・大会会場（福山市立大学）から JR 福山駅までの移動は、バス（14時52分発「手城入口前」の福山駅前行き）あるいはタクシー（約1,000円）を利用してください。

## 【大会への参加申込方法】

**申込期限：6月26日（火曜）**

※当日参加も可能ですが、希望分科会が満席の場合はご容赦ください。

### 1. 会員の方

- ① Newsletter に同封した「参加申し込み票」に記入の上、FAX でお送りください。
  - ② 学会ホームページから「参加申し込み票」をダウンロードし、記入の上、下記まで電子メールでお送りください。
- 参加費・懇親会費は、会場受付にてお支払いください。（お釣りのないようにご準備ください）

### 2. 非会員の方

- コミュニティ政策学会ホームページから「参加申し込み票」をダウンロードし、ご記入の上、下記まで電子メールあるいは FAX でお送りください
- 参加費・懇親会費は、会場受付にてお支払いください。（お釣りのないようにご準備ください）

〒720-0812 広島県福山市霞町4丁目1-25  
 FAX 084-924-4435 TEL 080-1937-3470  
 E-mail : tk-nakamu@hue.ac.jp  
 宛先：特定非営利活動法人ひろしま NPO センター福山支部(申し込み受付受託団体)  
 担当：村田民雄 中村隆行

## 【会場へのアクセス】

会場：福山市立大学港町キャンパス（広島県福山市港町二丁目19番1号）

### ■第一日目（7月8日（土））

- 福山駅前2番バス停乗り場（JR 福山駅南口）から、中国バス「手城経由鋼管病院」行に乗車して、「福山市立大学」で下車してください（所要時間約8分）。

福山駅前発  
 8:15, 9:30, 10:45, 11:40, 12:30, 13:20, 15:15, 16:05, 16:50

- また、上記と同じバス停（福山駅前2番バス停乗り場）から下記の中国バスに乗車し、「手城入口」で下車（所要時間約8分）、徒歩4分程度で福山市立大学に行くこともできます。

福山駅前発  
 8:40（四十分団地行）、13:05（四十分団地行）、14:05（四十分団地行）、  
 17:55（鋼管病院行）

■第二日目（7月8日（日）） **\*日曜日は「福山市立大学」に停車するバスはありません。**

○福山駅前2番バス停乗り場（JR 福山駅南口）から、中国バス「手城経由鋼管病院」行、「四十分団地」行に乗車して、「手城入口」で下車し（所要時間約8分）、徒歩4分程度で福山市立大学に到着します。

福山駅前発
8:00,8:50,9:30,10:00,10:45,11:25,11:45,12:35,13:20

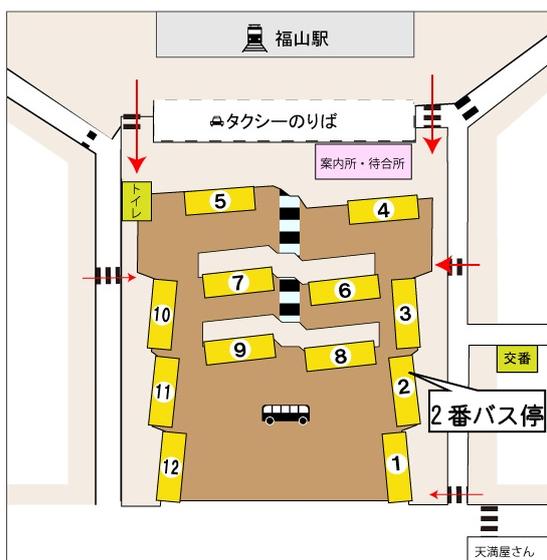
■会場から福山駅前行きバス（復路）

○一日目（7日（土））は、「福山市立大学」バス停から「福山駅前」行きバスに乗車してください。  
 なお、懇親会終了後のバスは「福山市立大学」に停車しませんので、大会会場（福山市立大学）から徒歩約4分の「手城入口」バス停から乗車してください。

○二日目（8日（日））は、「福山市立大学」にバスは停車しませんので、大会会場（福山市立大学）から徒歩約4分の「手城入口」バス停から乗車してください。

中国バス「福山駅前」行バス時刻表

7月7日（土）		7月8日（土）
福山市立大学	手城入口	手城入口
13:16	13:18	13:47
—	13:52	14:52
14:06	14:08	15:31
—	14:52	16:36
16:01	16:03	17:06
16:61	16:53	17:46
17:56	17:58	
18:41	18:43	
—	19:02	
—	19:36	



福山駅前バス停（2番乗り場）の位置



「手城入口」バス停の位置

【宿泊について】

○宿泊のあつせんは行っていません。福山駅周辺にホテルがあります。各自早めにご予約ください。  
 なお、「コミュニティ学会」参加のためと、フロントでお申し付けいただくと助かります。

# コミュニティ政策学会 第35回理事会議事録

日時：2018年3月18日（日） 13時30分～16時30分

場所：法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナードタワー19階D会議室

出席者：名和田是彦、林泰義、乾亨、鯉坂学、安藤周治、碓山洋、石田芳弘、佐藤克廣、杉崎和久、直田春夫、田中逸郎、谷亮治、玉野和志、辻上浩司、中田實、中西晴史、淵元初姫、前山総一郎、宗野隆俊、山本素世、羽貝正美、石井大一郎

議長：名和田是彦 事務局：伊藤雅春

## 【審議事項】

### 1. 第17回福山大会の準備状況について

・ これまでは市役所のバックアップの下、都市内分権制度をテーマとすることが多かったが、それとは異なる視点からオーラルヒストリーというユニークな手法を使い活動内容をテーマとする企画に期待している。

### 2. 来年度のシンポジウムについて

・ 来年度のシンポジウムとして、前回の理事会では2つの企画を承認したが、谷理事提案のシンポジウムは取り下げとなった。  
・ 大内理事提案のシンポジウムは、12月8日（土）に実施の予定。学会主催とする。

### 3. 第18回大会の開催地とテーマについて

・ 前回理事会では、高浜市、宮崎市、宇都宮大学の3つの候補が挙がっていたが、いずれも様々な理由で次年度は難しいという結論となった。  
・ 来年度の大会は愛知県の春日井市を第1候補として、難しい場合は法政大学を開催地とすることとする。

### 4. 各委員会からの報告について

#### 1) 研究企画委員会

・ 地域自治体研究プロジェクト報告。12月に研究会を開催した。3月に2018年度の飯田調査について検討する予定。  
・ 現在、研究プロジェクトが1件しか動いていないので、広報してもらいたい。メルマガは順調に発信されているがアドレス登録の課題がある。  
・ 支部が各地に立ち上がったなら、各支部に研究企画委員会担当者を置きたいと考えている。  
・ 支部設立は各地で積極的に進めてもらいたい。大会とシンポジウムだけではなく、日常的に学会活動に関われるようにしたい。大会を契機に支部

設立につながるとよい。今後は、常任理事会に支部責任者に出席してもらうことを考えている。支部活動の中からブックレットや叢書が発行されていくなどすれば学会の活動が活発になっていくと思う。

#### 2) 編集委員会

・ 第16号の内容について報告。自由投稿論文が今回3本で少なかったので多くの方に呼びかけていきたい。  
・ 査読者の人選に配慮する必要があるのではないか。  
・ 雑誌としてこの部分を大切にしたいというようなことはつきりさせる必要はあると思う。すべてに渡ってきびしくする必要はないということを確認にした方が査読もやりやすいのではないかと。学際誌の性格を確認にした方がよい。編集委員会で相談したい。  
・ 査読のあり方については、今後の留意事項としたい。

#### 3) コミュニティ政策叢書刊行委員会

・ 叢書、ブックレットの進行状況の報告。現時点で3冊の叢書が刊行されている。叢書の企画は随時受け付けているので積極的に提案してもらいたい。ブックレットについては、東信堂に2冊の完成原稿が届いている。4月以降3～4冊をまとめて出版できるよう準備している。ブックレットについても提案をお願いしたい。

### 5. 学会名簿の取り扱いについて

・ 会員名簿を作成して紙ベースで会員に配布するという必要性があることは分かったので、最低限の会員一覧に載せる項目（名前、所属、専門分野及び活動テーマ）についての公開の了解を確認す

ることと、会員情報（住所、連絡先）の更新確認を5月のニュースレター配布時に合わせてできるように進めたい。

**6. 会員動向について**

・会員動向について報告。会員数の現状は、350名程度に学会誌を送っている。50名程度は不明と会費滞納会員となっている。学会誌は3年滞納までは送っている。

**【学会で扱うべき長期課題についての意見交換】**

・前回理事会の記録の確認。本日の常任理事会では、都市内分権の制度というよりも地域の雇用、経済の地域内循環、社会的起業なども今後のテーマとして重要との指摘がなされた。学会誌の特集とも関連するが、単なる寄り合いの場ということではなく、背景にある経済的な問題や社会構造にも関心を払うべきとの指摘もあった。他には、もう少し規範的な内容になるが、コミュニティのデモクラシーなども重要なテーマではないかという提案もあった。名和田会長からは協働事業の提案制度のようなものに焦点を当てるという指摘もあった。

・もともとコミュニティ政策という問題関心は、制度とコミュニティをどう結びつけるかということから始まっている。そこにいろんな仕組みや

提案がなされてきた。この学会の課題はずっとそこにある。制度とコミュニティをどうつなげていくかということからいうと、コミュニティが多様化してきているということを踏まえて、どうするかという問題が出てきているのではないか。これまでは基盤にある一つのコミュニティをどう制度化すればよいかで済んでいたものが、今や基盤にあるコミュニティが多様化してきているので、この多様なままのコミュニティをどう制度で集約していくかという複雑な問題になってきたのではないか。一つの例は、関係人口といわれるように外からも人が来るという指摘もあった。これまでのコミュニティ政策をもう少し複雑に見ていくことが必要になってきている。そうはいつても、どこかで制度と切り結ぶことを考えないとコミュニティ政策論にはならないだろう。コミュニティそのものを探求することはずっとやられてきているが、どのレベルの政府とどのように結びつけていくのかという点がコミュニティ政策学会のオリジナルなところではないか。

**コミュニティ政策学会会員動向**  
(2017年12月11日から2018年3月18日)

<入会>

No.	会員氏名	所属等	推薦人	分類
1	辻 桂子	Read labo	十勝 裕	一般
2	宮木 裕子	仏教大学修士課程	十勝 裕	学生
3	杉山 武志	兵庫県立大学環境人間学部	鳥淵 朋子	一般
4	滋野 正道	株式会社基地計画	谷 亮治	一般

<退会>

No.	会員氏名	所属等	分類
1	伊藤 光造		一般
2	細川 正嗣	法政大学大学院公共政策研究科	学生

**コミュニティ政策学会 Newsletter No.39**

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学法学部気付

TEL 03-3264-9441 FAX 03-3264-4045

E-mail office@jacp-official.org http://jacp-official.org/

発行日 2018年6月1日 編集 事務局 伊藤、杉崎